

2025年度 地域連携活動助成金 活動成果報告書

1 活動概要

活動団体名	MUAC(Meiji University Architecture Crew) 理工学部建築学科の学生有志団体
活動テーマ	川崎市との協働による次世代担い手発掘・地域活性化プロジェクト ー建築ワークショップを通じた子どもがまちに関心を持つきっかけづくりー
活動期間	2025年 4月 1日 ～ 2026年 1月 31日
主な活動場所	本学生田キャンパス・川崎市役所・川崎駅・川崎市立中野島小学校
連携地域	川崎市内
連携団体等	川崎市役所・川崎市立中野島小学校
活動者数	教職員2名、学生16名 ※ 活動に参加した本大学の教職員及び学生の人数を入力してください。

2 活動概要 ※活動内容や活動成果は地域連携センターHP等で公表します。

活動目的（地域が抱える課題との関係や活動により期待される効果等、本活動が地域の課題解決や活性化につながる事が分かるように記入してください。）

スタート型：新しい地域連携活動を着想した背景、また必要性について記載してください。

ステップアップ型：「過年度の活動内容」を記載の上、今回の申請の「発展性」あるいは「応用内容」などを記載してください。※過年度の活動が無ければ記入不要です。

MUAC について

理工学部建築学科の学生で構成された学生団体で 2023 年 11 月に結成。MUAC（ミュアック）は Meiji University Architecture Crew の略。街を身近に感じてもらうことを目標に、イベントの開催や SNS を通じて様々な視点から建築やまちの魅力を発信しています。

MUAC SNS アカウント

Instagram：@we_are_muac (https://www.instagram.com/we_are_muac/)

X：@we_are_muac (https://x.com/we_are_muac)



図 1 MUAC ロゴ

昨年度の活動

2024 年川崎市は市制 100 周年を迎え、その記念事業の一環として 11 月の公共建築月間に合わせ川崎市と連携し、イベントを企画した。建築やまちづくりの次代を担う子どもたちに向け、川崎市内の公共建築や川崎のまちに興味を持ってもらうきっかけづくりを目標とし、活動を行った。昨年度の活動は大きく下記の 4 つのプロジェクトを実施した。MUAC はこれらの企画や、各種デザインの作成、ワークショップの実施をした。

・川崎アゼリアショーウィンドウプロジェクト

事業の実施に先立ち、JR 川崎駅前の地下街・川崎アゼリアで 2024 年 8 月 30 日～9 月 13 日の約 2 週間、ショーウィンドウの展示を行った。川崎市役所本庁舎の 1/100 模型や川崎市の地図パネルなどを作成し、公共建築月間と MUAC 企画のイベントの広報を行った。

・川崎まちさんぽスタンプラリー

川崎市内の合計 13 ヶ所の公共建築や関連するイベントを巡ってスタンプを集める小学生向けのイベントで、MUAC はスタンプラリーの台紙と 13 の施設や関連イベントのスタンプのデザインをしたほか、スタンプを集めるともらえるオリジナルの記念品トートバックやポーチをデザインした。

印刷した 9,250 枚の台紙が無くなり、多くの市民が参加して記念品も大好評であった。

・ちょきん箱づくりワークショップ

小学生に建築材料を身近に感じてもらうため、端材や木材を活用して学生と共にオリジナルの貯金箱を製作する工作体験のワークショップ。同市中原区で開催された「なかはら“ゆめ”区民祭」で実施し、100 個用意した材料がイベント終了前に無くなるなど、行列が絶えず子どもたちに大人気であった。

・川崎まちたんけんワークショップ

MUACの学生と小学生と一緒にまちを歩き、決められたターゲットを探しながら子どもたちに建物のスケール感や特徴・魅力などを感じてもらい、オリジナルマップを作成するワークショップで、13組の家族が参加した。

今年度の活動概要と方針

引き続き川崎市と協働し、これまでに築いてきた経験やレガシーを受け継ぎ、展開する。今年度は建築業界の将来の担い手不足を無くすため、小学生を対象としたワークショップを通して、建築や街の魅力を知ってもらい、興味を持ってもらうことを目的とする。

昨年度のワークショップを展開して行く中で得られた、知見や参加者からのフィードバックなどを活かして新たなワークショップの企画・運営を行う。今年度は、2023年に竣工したばかりの川崎市役所本庁舎と本学生田キャンパスからも近い川崎市立中野島小学校を対象とする。川崎市役所本庁舎は、昨年度スタンプラリーの設置場所であり、川崎まちたんけんワークショップの会場として扱ったが、今年度はより建築的なことにフォーカスしてもらうため、本庁舎内を巡ってもらうような計画とする。中野島小学校は、今年度耐震化工事により仮囲いの設置がされており、そこに通う児童に街のことに興味を持つきっかけづくりを行う。

活動計画（活動目的を達成するための具体的な計画や方法、申請団体と連携地域・団体等がそれぞれ担う役割、過年度の活動実績や次年度以降の継続性等について記入してください。）

今年度の活動目的

建築業界の将来の担い手不足を無くすため、小学生を対象としたワークショップを通して、建築や街の魅力を知ってもらい、興味を持ってもらう。

上記の目的を達成させるため、今年度大きく以下の3つのプロジェクトに取り組む。

・川崎アゼリアショーウィンドウプロジェクト

昨年度も取り組んだショーウィンドウプロジェクトを今年度も引き続き行う。2025年11月7日～21日の2週間展示を行い、MUACが企画する2つのワークショップの広報、11月の公共建築月間の広報を目的に行う。



写真1 設営の様子



写真2 ショーウィンドウ完成写真

・中野島小学校仮囲いアートプロジェクト～ミライに残そう中野島の夢～

川崎市立中野島小学校は今年度校舎の耐震化工事のため、仮囲いが設置されている。そこにアートを児童と製作する過程で、中野島の街を考えさせるとともに、工事現場を身近に感じてもらうことを目的に行う。

・実施日時：2025年11月15日(土) 3・4時間目

・実施対象：中野島小学校6年生約150名

・実施内容：

中野島小学校の職員の方の協力のもと、土曜参観日の授業時間を使いワークショップを行う。5クラス約150名の児童を相手に仮囲いアートを完成させた。アートのテーマは『ミライに残そう中野島の夢』とし、児童が思い描く中野島の街を仮囲いに表現してもらう。

まず、各クラスで児童と一緒に、アートを完成させるための準備を行う。MUACが事前に用意した4種類の家型の紙に児童が中野島にあったらいいなと思うものを自由に描いてもらう。事前に用意した中野島の街の下絵に児童が描いた家型の紙を貼り合わせ、中野島小学校の児童が思う浮かべるミライの中野島の街の仮囲いアートが完成した。

ワークショップの終了後、MUACのメンバーと川崎市の方で小学校に設置されている仮囲いに完成したアートを設置し、中野島小学校の児童や周辺の地域住民の方に6年生が作り上げた中野島の街をお披露目した。

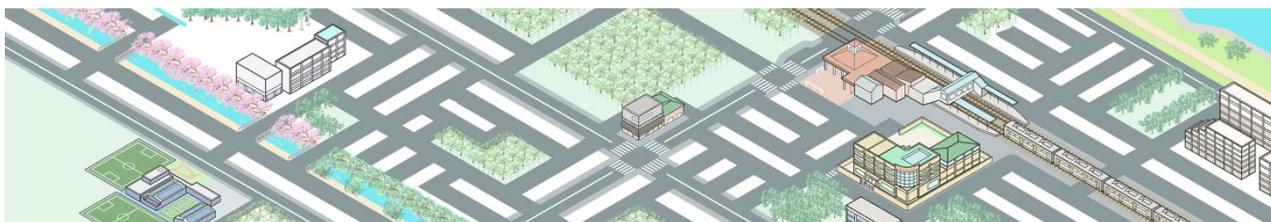


図2 仮囲いアート下絵

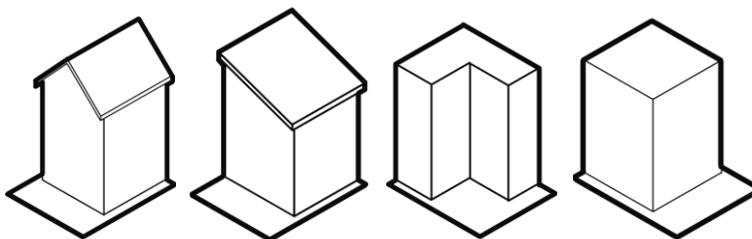


図3 4種類の家型の紙



写真3 教室内的でのワークショップの様子



写真4 仮囲いアート設営の様子



写真5 仮囲いアート完成写真

・実施結果：

ワークショップ実施後、参加児童にアンケートをとったところ、多くの児童が街並みや建築に興味を持ち、そういった仕事にも興味を持ってもらうことができた。11%の児童は今後川崎市内の企業で建築やまちづくりの仕事をしてみたいと回答し、本事業の活動目的を達成していると言える。

中野島小学校「仮囲いアートワークショップ」児童向けアンケート 回答 122件

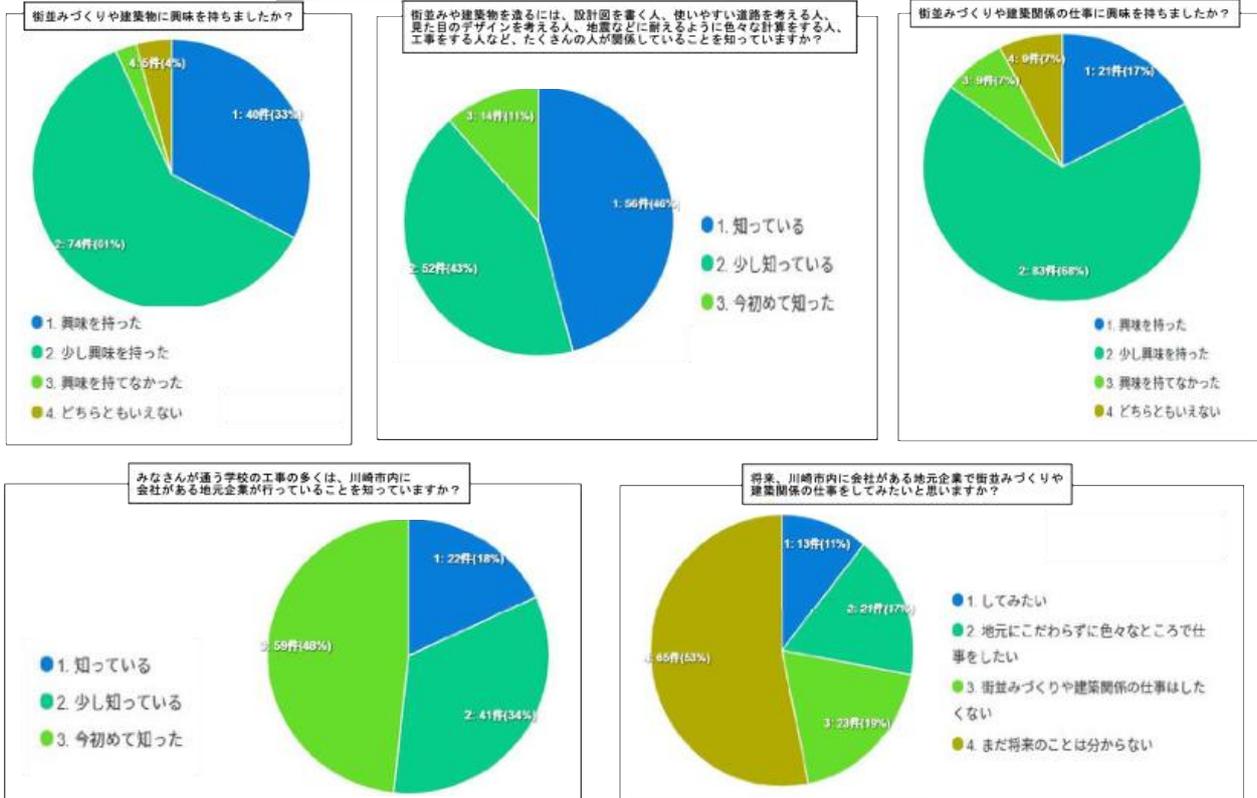


図4 仮囲いアートワークショップ児童向けアンケート

・市役所のヒミツを探れ！建物たんけん隊

2023年に竣工したばかりの川崎市役所本庁舎を舞台に、小学生に探検をしてもらいながら、建物の魅力を発見してもらうワークショップを行う。

・実施日時：2025年12月20日(土) 13:00-16:30

・実施対象：応募当選した川崎市内の小学生56名

・広報活動：

川崎市内の小学生に広く参加してもらうため、様々な方法で広報活動を行なった。

MUACが作成したチラシやポスターは市内の小学校や施設に配布掲示を行い、川崎市政だよりの11月号の紙面に大きくイベントの情報の告知を行なった。MUACのSNSでもイベントの情報発信を行なったほか、Instagramでは市役所本庁舎の建築的に面白い場所をクイズ形式で投稿し、イベント開催に向けて盛り上げた。

また、アゼリアウィンドウディスプレイでは展示期間が本プロジェクトの応募期間となっていたため、イベントのキービジュアルとともに、開催場所である川崎市役所本庁舎の100分の1スケールの模型を展示した。

当初40人程度の募集をかけていたが、72名の応募があり広報活動がうまく機能したこと、MUACの活動に対して市内の小学生を持つ保護者に多く期待が寄せられているということが分かった。本プロジェクトの応募者にとつたアンケートでは、このイベントを知ったきっかけとして市政だよりがほとんどとなっており、市政だよりを活用することの重要性と、他の広報媒体の発信力を高めていかなければならないということを実感した。

集まれ！建物たんけん隊！

建物たんけん隊

市役所のヒミツを探れ！

2025 12.20(土) 13:00-16:30 (12:30受付開始・雨天決行) **参加費無料 要申込**

川崎市役所本庁舎には、たくさんの建物のヒミツが隠されているよ。
市役所の中を探検して、壁を触ったり長さを測ったりしながら
隠されたヒミツを探してみよう！きみも建物博士を目指して、さあ、探検に出発！

- 開催場所：川崎市役所本庁舎
- 対象：川崎市内在住・在学の小学生（保護者同伴可）
- 募集人数：40名程度（応募者多数の場合は抽選となります。当選者には12月2日（火）頃にメールで通知します。）
- 申込期間：2025年11月4日（火）～11月28日（金）
- 申込方法：川崎市HPの申込フォームから

問合せ先：川崎市まちづくり局施設整備部施設計画課
電話：044-200-2965（平日9:00-12:00/13:00-17:00）
メール：50sisetu@city.kawasaki.jp

ワークショップの実施概要

川崎市と明治大学理工学部建築学科の学生団体「MUAC（ミュアック）」が連携して企画した、建築の面白さと魅力を発見する体験型のワークショップです。川崎市役所本庁舎を探索しながら空間デザインや素材、先進的な技術を見たり、触れたりしながら、市役所の建物に関するクイズに挑戦！建築について楽しく学んでいきます。クイズにたくさん正解して「建物博士」を目指そう！

- 市役所の建築クイズ：市役所の中を歩きながら、建築の工夫や最新技術を探して、クイズに答えていきます。簡単な建築の基本情報からマニアックな建築の技術まで学びます。市役所のヒミツに迫ります！
- 背比べワークショップ：市役所の中にあるいるんものを測って自分のからだのサイズと比べます。地上25階建ての市役所本庁舎は人間何人分になるでしょうか。実際に設計図に書き込みながら建物の大きさを体験します。

会場案内

川崎市役所本庁舎
神奈川県川崎市川崎区空室1番地
●JR川崎駅から徒歩約7分
●京急川崎駅から徒歩約5分
※来場の際は公共交通機関をご利用ください。

MUACとは

MUACとは明治大学理工学部建築学科の有志学生によって構成された学生団体です。街を身近に感じてもらうことを目標に、ワークショップなどのイベント開催や、SNSを通して、さまざまな視点から建築の魅力を発信しています。昨年度は市制100周年記念事業として川崎市と協働し、公共建築をめぐるスタンプラリーやワークショップの開催、ウィンドウディスプレイの展示などを実施しました。Instagramにてこれまでの活動などを発信しています！ぜひ覗きにきてください！

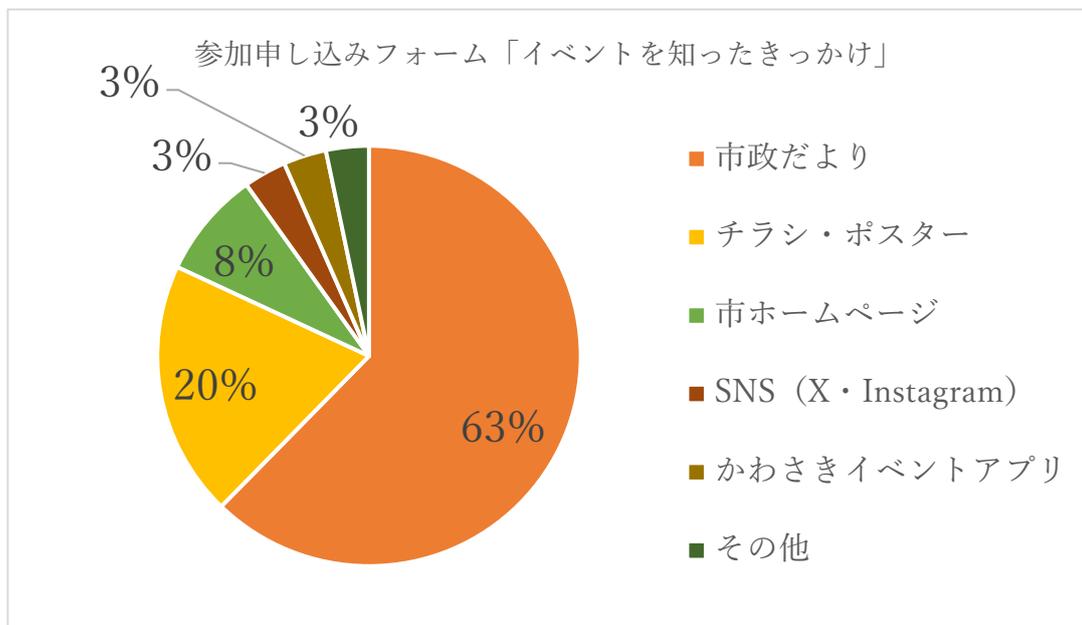
川崎市役所本庁舎

2023年に完成したばかりの川崎市役所新庁舎。市役所としての防災機能はもちろんのこと、積極的な環境配慮システムの導入や川崎市の文化の発信拠点としての機能を有しています。復元棟には市役所の歴史を感じられる展示や、一般の方も利用できるカフェが入居しているほか、最上階の展望デッキは市内を一望できるスポットとして人気です。

図5 建物たんけん隊チラシ



図6 SNS投稿



グラフ 1 イベントを知ったきっかけ

・実施内容：

川崎市役所本庁舎を舞台に、小学生に探検をしてもらいながら、建築の魅力を見つけてもらうワークショップを行う。応募当選した56名の児童とともに、用意したクイズを行いながら建物内を探検してもらう。

探検は6人程度のグループで行う。まずスタート地点となる会議室でアイスブレイクを行う。グループ内での自己紹介はもちろんながら、グループで協力して自分自身の歩幅と身長を計測し、建物のスケール感を肌で感じることができるよう準備を行う。

児童にはクイズや見つけてきたものをメモする「たんけんノート」と川崎市役所本庁舎のマップが書かれた「たんけんマップ」を渡し、探検に出発した。探検は本庁舎内を大きく4つのエリアに分けて順番にローテーションしながら探検する。旧川崎市庁舎の歴史が感じられる「復元棟エリア」、災害に強い庁舎を支えるための「免震層エリア」、川崎市の行政を決める「議場エリア」、市内を一望でき

る「展望台エリア」。これら4エリアをまわりながらクイズに答え、建築の面白さに気づいてもらう。クイズは、回っている中で庁舎内に書かれている看板がヒントになったり、アイスブレイクで測った歩幅や身長などの身体スケールがヒントになったりするものなど様々。難易度も建築を勉強していないとわからないマニアックなものから、日常の中で頻繁に目にするものまで用意し、様々な学年の児童がいる中で楽しめるよう、様々な角度から出題した。

探検の後には、大きな探検マップに見つけてきた面白いものを書き込み、グループ内で共有。その後、他のグループと見つけてきたものの情報共有を行い、より知識を深めさせた。クイズの答え合わせを行なった後、参加した児童に「建物博士認定証」を授与し、本イベントを締め括った。



写真6 探検中の様子

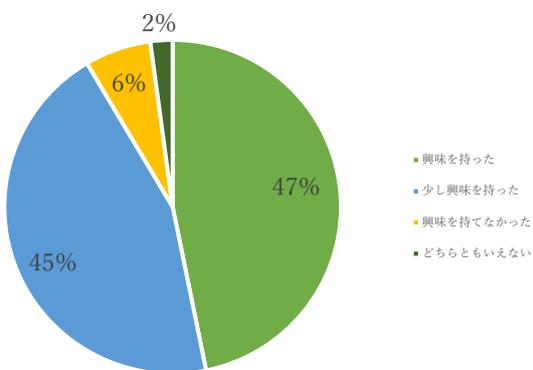


写真7 当日配布した、たんけんマップ・たんけんノート・建物博士認定証

・実施結果：

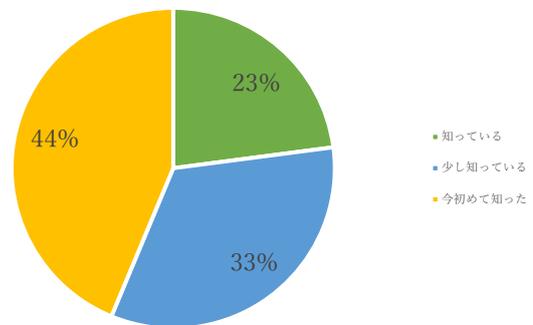
本イベント終了後、参加した児童とその保護者に対してアンケートを行なった。多くの児童が建物やまちづくりに興味を持ち、21%の児童は川崎市内の会社で建物を造る仕事をしてみたいと回答した。こちらでも今年度の活動目的に適した結果が得られたと言える。保護者からは、建築業界に子どもが進むことに関して肯定的な意見が多く、また今回のイベントの具体的な反省点など多くのフィードバックをいただいたこと、今後もこうした企画を実施してほしいという期待の意見をいただいたことは、次年度以降の活動をさらに飛躍させるために重要なものになった。

問4：建物に興味を持ちましたか



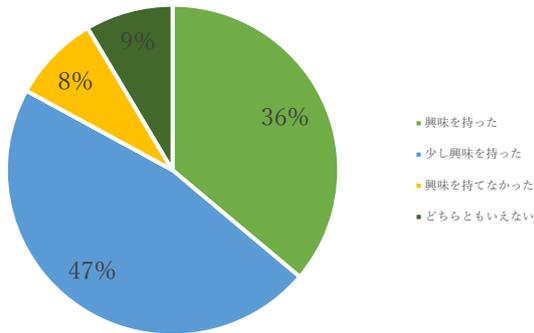
グラフ 3 児童向けアンケート(4)

問5：建物を造るには、設計図を書く人、見た目のデザインを考える人、地震などに耐えるように色々な計算をする人、工事をする人など、たくさんの人が関係していることを知っていましたか？



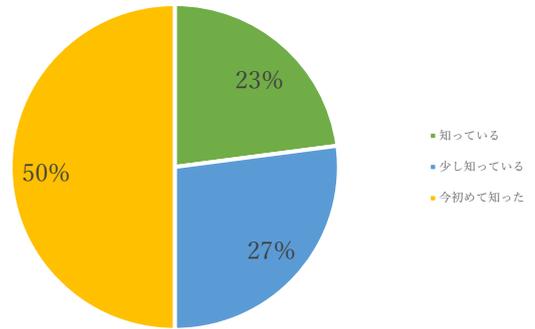
グラフ 2 児童向けアンケート(5)

問6：建物を造る仕事に興味をもちましたか



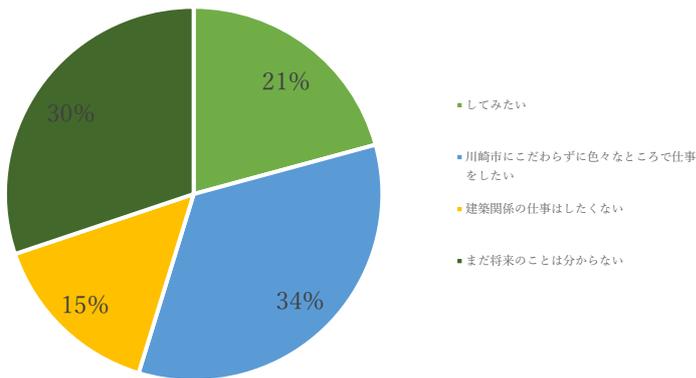
グラフ 6 児童向けアンケート(6)

問7：今、みなさんがいる建物は、川崎市内の会社が造りました。みなさんが通う学校の工事も多く、川崎市内の会社が行っていることを知っていますか？



グラフ 5 児童向けアンケート(7)

問8：将来、川崎市内の会社で建物を造る仕事をしてみたいと思いますか？



グラフ 4 児童向けアンケート(8)

今後の展開

MUACは引き続き街や建築を魅力に感じてもらうことを目的とし活動を継続して行く。本事業の目的にしてきたことは、単発のイベントで達成できるものではなく、継続していく必要がある。また、これまでのプロジェクトの参加者や協働で行なった川崎市からの期待感が後押しし、次年度以降も引き続き建設業界を盛り上げていくための事業を計画する。また、一方川崎市のみの予算では、同様のプロジェクトを行うことが難しいことから、次年度も助成金を活用する必要がある。

なお、申請時に予定していた、川崎市内の高等学校や業界団体との連携は、学校行事との日程調整や、業界団体との現場の調整が課題となり、連携が難しい結果となった。実施できた上記の3つのプロジェクトの他にも、廃材を用いた工作ワークショップや、小学校の修繕・美化ワークショップを計画していたが、十分な廃材の確保や、修繕・美化対象物の選定が課題となり、実施を見送った。これらの課題に向き合う中で、地域連携に必要な調整や、企画から実現へのプロセスについて実践的な学びを得られた。こうした課題と成果の両面を踏まえ、次年度以降の活動へと確実につなげていきたい。

活動スケジュール（実施した広報活動についてもご記入ください。）

- 4 月 ～ 8 月：連携内容と企画の構成、連携団体との調整
- 8 月 1 日：多摩区域学連携まちづくりシンポジウムにて昨年度の活動報告と今年度の企画予定内容を共有
- 8 月～11 月：企画実施に向けたデザインや企画の具体化
- 1 1 月 1 日：川崎市政だより、SNS、チラシ、ポスターによる「市役所のヒミツを探れ！建物たんけん隊」広報
- 11 月 7 日～21 日：川崎アゼリアショーウィンドウプロジェクト
- 1 1 月 1 5 日：「中野島小学校仮囲いアートプロジェクト～ミライに残そう中野島の夢～」実施
- 1 1 月 2 5 日：本学広報課にてプレスリリース配信
- 1 2 月 2 0 日：「市役所のヒミツを探れ！建物たんけん隊」実施
- 1 2 月 2 1 日：「市役所のヒミツを探れ！建物たんけん隊」読売新聞掲載
- 1 2 月 2 4 日：「市役所のヒミツを探れ！建物たんけん隊」建設通信新聞掲載
- 1 月 7 日：「中野島小学校仮囲いアートプロジェクト～ミライに残そう中野島の夢～」建設通信新聞掲載
- 1 月 8 日：仮囲いアート撤去作業
- 2 月 2 日：地域連携活動助成金活動報告会
- 2 月 9 日：「中野島小学校仮囲いアートプロジェクト～ミライに残そう中野島の夢～」理工学部ニュース掲載
- 2 月 9 日：「市役所のヒミツを探れ！建物たんけん隊」理工学部ニュース掲載

連携先からの一言/参加学生からの一言/参加者からの一言（連携先又は参加学生からの一言の場合、所属と氏名をご記入ください。）

所属：川崎市まちづくり局施設整備部施設計画課 職・氏名：担当課長 柳瀬 一路

川崎市内に明治大学理工学部建築学科が存在しているものの、今まで建築行政として全く連携できずにいたところ、昨年度における市制 100 周年記念事業において、「優秀で柔軟な発想を持つ学生の知恵を活かして、子どもたちに夢と希望の持てる事業をやっていただけないか」と声掛けをしたのが連携を始めるきっかけです。

大学側では、即有志による学生団体（MUAC）を立ち上げて募集し、学生が集まったことにより、事業協力に対して快諾していただきました。

このたび MUAC と連携したことで、アンケート調査や事業実施中における子どもたちや保護者の様子を見ると、非常に満足度の高い企画内容であったことが分かります。

これらの事業効果は、学生の皆さんの能力の高さと、そうした機会を与えていただける大学の校風や、「地域連携活動助成金」という制度があったからこそ実現できたことではないかと感じております。

また、MUAC との活動は今年が 2 年目となりますが、徐々に加入するメンバーも増え、学生の皆さんは、昨年よりも一回りも二回りも成長していることも実感しておりますので、ぜひ、今後とも本市との連携を継続していただきたいと考えております。

このたびは、このような機会を与えていただき、ありがとうございました。

所属：理工学部建築学科 4 年

氏名：吾郷菜奈美

今年度は 3 つのイベントを開催し、昨年度以上に多くの子供たちに楽しく参加していただきました。MUAC として掲げる活動目標に向けて前進できたと実感しております。

昨年度に引き続き、川崎市まちづくり局の皆様と企画から運営まで協働させていただけたことに加え、今年度は地域連携活動助成金に採択いただき、学生だけでは決して実現し得ない大きな成果につながりました。

中でも、川崎市立中野島小学校にて授業の一環として実施した工事用仮囲いアートワークショップは、地域の小学校と連携した MUAC 初の取り組みであり、私たちにとって大きな挑戦となりました。小学校との連携により、建築分野に興味のある子どもたちに限らず、小学6年生一学年を対象とできた点は、広く子どもたちに建築やまちづくりの魅力を伝えることができる貴重な機会となりました。

来年度は、新たな地域や企業との連携が予定されており、活動の幅がさらに広がる見込みです。これまでの経験を糧に、MUAC としてより一層成長していきたいと考えております。この度は地域連携活動助成金に採択いただきまして心より感謝申し上げます。